

# 七河迦南 『空耳の森』 早引表

!!閲覧注意!! 「七つの海を照らす星」  
「アルパトロスは羽ばたかない」  
「空耳の森」の作品内容に触れています!!

※七河迦南『空耳の森』(東京創元社、2012年10月30日 初版)に基づき作成した。

※SAKATAMさんのサイト「黄金の羊毛亭」のネタバレ感想を参考にさせていただきました。(http://www5a.biglobe.ne.jp/~sakatam/book/soramimi.html)

No.	タイトル	章	頁	粗筋	備考
1	冷たいホットライ ン	1	7	吹雪のなかを進む正彦。トランシーバで、小屋にいる尚子と会話。	
2		2	9	登山をするようになったいきさつ。尚子が捻挫する。手旗信号の人形をみつけ、正彦から文字を教わる。正彦に鳥を見てきてよいと伝える。	
3		3	13	小屋を離れた正彦。道が崩れる。野鳥観察を終え、吹雪のなかを戻る。尚子からトランシーバで連絡。屋根の人形にNのポーズをさせた。本当はH・Nにしたかった。 * * * 大柄な男が正彦をみつめる。	p.17 「うーん、まだ三時半だから、大丈夫だろう」
4		4	18	二人が携帯電話を持っていない理由。Nのポーズをさせた人形を上げる。トランシーバで正彦に連絡。	
5		5	21	再び尚子からトランシーバで連絡。「まだ、なの？」苦境をわかってくれない尚子への苛立ち。『アンナブルナ登頂』 * * * 大きな黒い影が動く。前もってすべきことは既に終わった。	p.21 “ほとんど冷気を遮ることもできないあの小屋で、軽装の尚子は一晩を越すのも無理だろう” p.24 “いや、今さら引き返すわけにはいかない。自分はもう選択したのだ。この道を。自分が行かなければ、尚子を助けられる者はいないのだ”
6		6	25	不安な感情を正彦へぶつけたことを後悔する尚子。トランシーバがつかまらない。	
7		7	27	わたしのことはもういい、あなたまで死んでしまうと尚子からトランシーバで伝えられる。雪のなかを進む正彦。目標物を捉える。	p.27 “時計を持ってこなかった彼女のために、正彦が外して置いていった腕時計”
8		8	28	眠くなってくる尚子。扉を叩く音。扉を開け、悲鳴をあげる。	
9		9	30	正彦が、目標物だった「* * 山登山口」の道標の横を通り過ぎようとして、腕を掴まれる。	
10		10	31	松橋警部補から尚子に事情説明。	
11	アイランド	1	43	となりの島のこと。小山と、小屋のこと。	
12		2	45	島で暮らし始めた経緯。お姉ちゃんから字を教わる。トイレのこと。	
13		3	48	地底で食べものを探す。夏、島のはしのほうにできた池で水浴び。	
14		4	52	隣の島でなにかが動く。空に色とりどりの丸いものが飛んでいた。風船だと教わる。 手紙を書き、風船に結びつけて飛ばす。	p.53 “幹に巻いてあったワラが細かく飛び散った”
15		5	56	冬が近づく。お姉ちゃんに、島にいたいか訊かれる。戻らないお姉ちゃんを心配し、地下へ。やじゅうに押さえつけられる。棒でやじゅうをなぐるお姉ちゃん。	
16		6	59	ぼくが熟をだす。島に来る前のことを回想。 「もう春なのよ。冬をのり切ったの。もうだいじょうぶ」けものに囲まれる。	
17		7	63	ベッドのなかで、二人の男の会話を聞く。	
18	It's only love	1	73	あたし。カナ先輩の披露宴が終わる。ホテルの廊下で会話。ホテルをでて皆と別れ、男に声をかけられる。男に背を向けて歩き、メールを確認。ピッカから相談したいことがあると言われる。ファーストフード店でピッカと会話。キャバクラで働くキラ先輩が来なかったのは「女だと思っんです」年上の彼女と交際している噂。社会人のあたしから訊いてほしいと頼まれる。	p.73 “あたしとチコ以外は全員現役女子高生のテーブル” p.74 “祝電の時カナさん泣いてたよね” p.75 “勘違いにもほどがある” p.75 愛称のひとつは“ミッキー”。 p.78 “水商売イコールだらしない、みたいに直結しているらしいピッカの短絡的なところも気に入らなかった”
19		2	79	俺。キャバクラで女の子たちの面倒を見る。「牛乳買ってきて」と携帯電話で頼まれコンビニへ。	
20		3	86	あたし。キラの過去。キャバクラ「ビューティフル・ワールド」へ。キラに変な女と付きあっているのかと訊くが、大きなお世話だと拒まれる。バンドはやめたという。	
21		4	90	俺。帰宅。彼女の面倒を見る。エレキギターを手にして回想。	
22		5	93	あたし。喫茶店でピッカと会う。キラが付きあっている女性は“いかがわしい店の前”でキラと話をしていたり、結婚式のパーティーに来ていたらしい。キラはカナ先輩が好きだったのではないか。結婚前にカナ先輩はキラと会ったが、いまは他に好きな人がいるらしい。あたしは、カナの卒業時に饅頭の品をキラに相談されたことを思い出す。キラの住所をピッカに渡される。	
23		6	98	俺／あたし／彼女。高校時代を回想するキラ。教室でギターを弾いていると彼女に「いい曲だね」と声をかけられた。キラのアパートを訪れるあたし。玄関にでてきた女性がかかなりの年上で驚く。「引っ込んでくれよお母ちゃん」キラが、半年前から母と同居を始めた経緯を説明。店の前でキラと話したり結婚式に来ていたのは「あんただよ」起きてきた母に誰か覚えていると問うと「あんたの先生じゃないの」。	p.102 「あたし、あなたより七つも年上なのよ。それに……それに——」
24	悲しみの子	1	107	トリちゃんが浜野に、二人の少女が手をつなぐイラストの不穏な印象に訳ありではと相談する。	
25		2	110	荷物を引き揚げて、実家へ帰ってきた宏。清子が夕飯の買い物にでかけ、光が顔を出す。居間から入ってきた光がVHSテープを落とす。	p.113 もう一本落としたテープには「X△年七月三日公園で水遊び光クリスティンパも一緒」

26		3	113	夫が荷物を引き揚げたことに安心するアンナ。クリスティンも連れていかれたかと不安になるが、リビングにいた。家を建てた経緯を回想。アンナの母親から電話。リビングボードのマグカップには「ひかる」「くりすていん」の名前があった。	
27		4	117	N県T町の福祉相談票より。法条清子から、アメリカ人の嫁が孫を虐待するという訴え。 N県T町福祉課からY県C市子ども家庭課への連絡。 坂詰主任児童委員の調査結果。母と娘が正月にお揃いの着物を着て歩いていた。ボーイッシュで光と呼ばれるお嬢さんと父親がでかけていた。Y県総合家庭相談センター電話相談票より。離婚予定のアメリカン女性から親権をとれるかという相談。	
28		5	119	帰宅した宏。居間で光がノートパソコンでメールのやりとりをしている。アンナが専門家に相談したことを清子が不安がっている。アンナは何をしようとしているのか。	p.120 “宏があの大画面のテレビを買った時には既に家族一緒に見ることなどほとんどなくなっていた”
29		6	120	リビングのドアを開けると、クリスティンはパソコンの画面をみつめていた。	p.121 “買った方がいいがほとんど見てもない新型テレビ”
30		7	122	浜野相談員がトリちゃんにイラストのことを相談する。トリちゃんの名前の由来は『イルスの竖琴』から。それがきっかけでイラストを描いたhikaruと知り合った。 メールでhikaruとやりとりするトリちゃん。「いなければよかった！自分なんて」姉妹離ればなれになるのが辛いのかと問うと、違うと返信がある。	
31		8	129	居間から光の姿が消えていることに気づく宏。 *** 電車内で、光は男の子だったのではと推理するトリちゃん。 *** 娘の姿を探すアンナ。リビングに戻ってくると、宏がいた。玄間に二人の人影。「わたしの名前を呼んで」	
32		9	132	浜野から謎解き。	
33	さよならシンデレラ	1	139	カイエのママに声をかけられるリコ。マンションに帰り、母親のエプロンから金を奪う。 ファミレスでユキから携帯電話の着信を受ける。一年生が港中学のグループに取り囲まれたため、ゲーセンへ助けに行く。アケミはいまにも飛びだしてきそうな勢いだったが、カイエも参戦したことで店をでていく。 助け一年生のアミとマミ、リコ、ユキ、アケミの五人でバス通り沿いのカフェへ。店にいる母親のPHSに電話。ユキによると、見かけない男がリコとカイエを探していたらしい。カイエの武勇談。	p.140 “そんなこと言わないで。気持ちはわかるけど、今はあんたが行ってくれてるのだけが頼りなんだから” p.141 “あたしの金だ” “だってそのお金がないと” p.142 “あたしはどこの中学でもねえよ” p.145 “受話器から賑やかな音が聞こえてくる。母親は昼前から夜まで店にいる”
34		2	147	町田マサトと「少々探偵団」として活動した思い出。 *** ユキから、港中のアケミが殴られ病院送りになったと連絡を受ける。封筒から二万円が奪われ、リコたちが疑われているという。土手で単語帳を目にしていると、男に声をかけられる。「お前はうちをやめた方がいい」	p.158 “ “Riko” のRだ。 “Resurrection” (復活・蘇生) のR。 “Rebirth” (再生) のR。 ” p.158 “それはそうだ。お前は十四だからな”
35		3	160	マサトと再会。ユキから、リコが不良であること、事件のことを聞いたという。丸山くんからは、リコに学校退学の話があると聞いたという。 *** みどりが丘の運動公園の脇でマサトがカイエをつかまえ、港中のグループへの仲介を頼む。 *** 珈琲店「ハーバー」でマサトが港中のチエと会う。封筒はアケミの体の下にあった。	
36		4	168	マサトがカイエに電話で推理を説明。リコを退学させないよう学校に伝える必要があるが、連絡先がわからない。リコの母親に聞いた場所へ直接行ってみる。 客を送りだすリコ。店の前で黒い服の男とマサトが言い争っている。カイエからマサトに、リコの家事情を説明。	
37	桜前線	1	181	職場の後輩に呼びかけられた気がしたカイエ。「フランス語？」	
38		2	182	不良少女のリコと行動を共にするようになった思い出。カイエの家族と家事情。	
39		3	186	不良少女としてリコとカイエがしてきたこと。「じゃ言うけどさ、明日、その、デートにつきあってくんない？」	
40		4	189	大学生の藤木、秋津と居酒屋へ。カラオケボックスへ行き、男たちと分かれた後でリコと終夜営業のファミレスへ。デートをすることになった経緯を聞く。	
41		5	193	二人で弁当作り。フラワーセンターのある県立公園で弁当を広げる。「『桜前線異状あり』ってどこ？」居酒屋で吞んでいるとリコの携帯が鳴る。海岸沿いの道路で大人数のケンカ。 次のデートのため待ち合わせの駅に一番乗りしたカイエが、小学校のときの担任と会う。リコは生活を変えるべきではないか。	p.197 “カイエちゃんは本当にリコちゃんのことを大事に思ってるんだね”
42		6	197	グループ交際を続ける四人。藤木と秋津は大学でサッカーの同好会に入っている。練習を見に行くと、女子学生たちと険悪な雰囲気。リコは秋津が好きだという。 海にちなんだ名前のカフェで、藤木から告白されるカイエ。藤木の口調にカチンと来て、邪険にしてしまう。 その夜、後悔したカイエは藤木と再度会うことに。出がけに中学の後輩から助けを求められる。市民公園の一角へ。なぜか秋津がやってきて、ナイフで腹を刺される。	
43		7	205	藤木にくちづけする秋津。秋津はリコの店に向かうかもしれないと、携帯電話でメッセージを送る。	

44		8	207	病院の待合室でリコと会う。カイエが藤木と秋津の両方に愛されたことが原因ではと詰め寄るリコ。帰宅後、メールでやりとりするが「無理。縁切ったから」と返信される。 家に警察官が訪ねてくるが、リコのことを隠し通す。	
45		9	212	マンションを訪れるが、リコはもうここにはいないと言われる。 一週間前、ユキと県道沿いのカフェで会った。リコは「桜の舞女学院」を辞め、変な宗教に関わっているという。警察署に電話するが、捜索願をだせと言われる。リコの母に、ユキから知った話を伝える。	
46		10	216	不良をやめてから就職するまでの経緯。職場の後輩が、メールの謎を解く。	p.221「あ、もうお見舞いの時間だ。行かなくちゃ——じゃあ失礼しますっ」
47	晴れたらいいな、あるいは九時だと	1	225	居酒屋へ入る男。捜していた顔が見当たらないので帰ろうかと思うが、顔馴染みの若い女性に相席を勧められる。ジェノグラムについて会話。	
48	遅すぎる(かもしれない)	2	233	かつて仕事でかかわったことのある女性と、数ヶ月前にたまたま店で再会した。店で顔を合わせるたび会話を交わすようになった。 出張先の隣のターミナル駅で、彼女のかつての恋人らしい男をみかける。 八月半ば、店に行くが彼女の姿がない。一週間も見かけていないことをマスターに相談。女友達との会話の断片を教えてくれる。「昔なつかしい人と会ったの」顔をあげるとカウンターに男の子の写真。立秋と書いて「たつあき」という名前だという。誕生日には店を休ませてもらった。	p.233 “彼女と出会ったのは七年前、たった一日の、それも仕事でのかかわりだったが” p.236 登山のことを話題にすると“気がつくけど彼女は言葉少なになり”
49		3	239	謎解き	
50	発音されない文字	1	253	休暇の終わりに、どこかへ向かう語り手。県南地域で何人もの少女が失踪している。Kによれば、Aは失踪前にカフェのオーナーと話しこんでいた。少女Rのことを回想。	
51		2	257	大学時代に彼女と出会ったときのことを回想。「わたしってHなんですよ！」 白い家へ。そのような名前の方は存じ上げないと言われるが、小松崎直からの伝言を持ってきたと伝えと通される。	
52		3	263	家の主＝カフェのオーナーと会う。売春をそそのかし、死に向かうよう誘導していたと責める。夫から暴力をふるわれる、か弱い人と思っていたがそうではなかった。	
53		4	271	ボルヘスの『死とコンパス』のように、語り手をここへ来させるためにカフェのメッセージを用意した。わたしが怪物ならあなたは怪物の娘なのよ。 「ぼんやりさん」あの一のことを思いだし、別れを告げる。	
54	空耳の森		285	リビングのCDラジカセで音楽を聴く少女。突然耳元で聞こえた声に飛び上がる。「『とわこ、いつかはいくね』って聞こえた」	
55		1	287	休憩所に向かう七海中央病院の看護師、尚子。姓を十月には変える予定。思わぬ事故で意識不明の彼女に子どもたちが面会に来ている。年代ものって感じの機械に突っ込みを入れている。よく面会に来る少年とぶつかりそうになる。	
56		2	290	七海学園が借りる一軒家で掃除をする河合恵美子。家の裏の森は子どもたちに「空耳の森」と呼ばれている。亜紀が、ほんとに永遠子の声を聞いてみたいと言う。 永遠子伝説。カセットに録音したCDの音に『永遠子、五日は行くね』という声があったという。恵美子の指示でテープをかけてみるが、声はしなかった。 セーラー服の武藤茜が来る。ホームレス状態だった茜の生い立ち。前庭を綺麗にしていると、目の前の道をリコのお母さんが通りかかる。「カイエちゃん？ 久しぶりねえ」	
57		3	298	保育士の大隈と再会したことをきっかけに七海学園へ就職することとなった経緯。リコを宗教団体から連れだしたと、老人施設でヘルパーの仕事に就いていることを教えてもらう。 ウォークマンのホットラインのボタンを懐かしむ。「ほんととはこいつ可愛くね？」という言葉だったのではと思に至る。 河崎明が来る。法条光クリスティンから携帯電話に着信。明が来てるよと伝えると、声が弾む。光クリスティンの家庭事情。 「ピッカ来るって」そう伝えると河崎明は関心なさそうにならず。	p.305「そんなわけないです。あたし彼より七つも年上なんですよ？」
58		4	306	二階から茜の小さい叫び声。一ノ瀬界が、これまで続けていたらしい身振りを繰り返す。七海学園に走り出す恵美子。	p.306 一ノ瀬界の身振りは、HとRを意味する手旗信号(p.12参照)。

## ■年表

1997年

「さよならシンデレラ」

→p.139 カイエは“もう中学三年生”、その p.191 “一つ下”のユキが、「桜前線」では p.200 “みどり丘中の三年”

1998年

「桜前線」(過去)

→秋津が藤木とカイエを刺す事件が起きたのは p.201 “秋風”が吹くころで、p.214 “来年七月に人類は滅亡する”

2000年

「冷たいホットライン」

→p.233 「晴れたらいいな～」の“七年前”

2004年

「悲しみの子」

→p.108 “二十一世紀最初の五輪がオリンピック発祥の地アテネで開かれた”

2004年～2005年

「アイランド」

→「空耳の森」での武藤茜が p.296 “中学一年生”で、「アイランド」では p.297 “本来小五の年齢のところ小四のクラスに”、p.43 “十歳”だった

- 2005年  
「桜前線」(現在)  
→「空耳の森」で p.295 “一緒に働いて三年目”だったあのひとに事故が起き(2007年)、「桜前線」では p.182 “今年就職したばかり”
- 2007年8月  
「晴れたらいいな〜」  
→p.245 “二年前、二〇〇五年”、p.225 “八月も後半”
- 2007年12月  
「発音されない文字」  
→あのひとが意識不明になったのは「晴れたらいいな〜」より後で「空耳の森」より前、p.253 “十二月十六日の新聞”
- 2008年  
「空耳の森」  
→p.285 “2008.6.1 15:30”
- 2011年  
「It's only love」  
→ p.73 “2011.1.15 Happy Wedding”

#### ■複数の作品に登場する人物

##### 力武 尚子

- 「冷たいホットライン」での、力武尚子  
「晴れたらいいな〜」での、姿を見せなくなった彼女  
「空耳の森」での、看護師

##### 松橋

- 「冷たいホットライン」での、p.32 松橋警部補  
「晴れたらいいな〜」での、男(p.247 “松橋警部”)

##### 武藤 茜

- 「アイランド」での、お姉ちゃん  
「空耳の森」での、p.296 武藤茜

##### 河合 恵美子

- 「It's only love」での、あたし(p.75 “ミッキー”)  
「さよならシンデレラ」「桜前線」での、カイエ  
「空耳の森」での、河合恵美子

##### 河崎 明

- 「It's only love」での、キラ先輩  
恐らく「桜前線」での、p.206 “小学校三、四年くらいの男の子”  
→p.303 河合恵美子が“偶然その前から顔を知っていた子”  
「空耳の森」での、河崎明

##### 塔ノ沢 加奈子

- 「It's only love」での、p.73 結婚した“カナ先輩”  
「空耳の森」での、p.297 児童相談所にいた武藤茜を安心させるため連れていかれた年長児

##### 法条 光クリスティン

- 「It's only love」での、p.304 “ピッカ”  
「悲しみの子」「空耳の森」での、法条光クリスティン

##### リコ

- 恐らく「It's only love」での、呑む約束をしている p.96 あたしの“幼なじみ”  
「さよならシンデレラ」「桜前線」での、リコ  
恐らく「晴れたらいいな〜」での、p.225 “世話役らしい女性”  
恐らく「空耳の森」での、p.287 “大柄な介助者”  
→p.300 “老人施設でヘルパーの仕事について”

##### 大隈

- 「桜前線」での、p.206 “体格のいい中年女性”  
→p.299 “かつて男に刺された自分を助けてくれた保育士の大隈”  
「空耳の森」での、大隈

##### 「発音されない文字」での語り手

- 「発音されない文字」での、語り手  
「空耳の森」での、p.297 “学習ボランティアの女性”

##### H

- 「It's only love」での、“結婚式に緊急の用事で出られなくなり、代わりに祝電を打った仲間”  
→p.86 “彼女なら言いそうなことだけど”、“どんなダメ恋愛でも、片想いでも、どこかに、ほんのちよっとは輝いている瞬間がある”  
「悲しみの子」での、トリちゃん  
→北条光クリスティンと p.304 “学生ボランティアをしていた時出会っていた”  
「桜前線」での、職場でのカイエの後輩  
→p.305-306に、意識不明になったあのひと＝後輩であることが記述されている。  
「晴れたらいいな〜」での、謎解きをする女  
→p.248 “お友達が先に帰る時、彼女の名前を呼んだら、わたしの友達が、自分が呼ばれたと思って”  
呼ばれたのは力武尚子の名前だったが、小松崎直が勘違いした。  
「発音されない文字」「空耳の森」での、あのひと